

名 称	あぜみち駅伝支援センター
所 在 地	〒989-2292 宮城県亙理郡山元町浅生原字作田山 32
連 絡 先	TEL : 0223-37-5116 (内線 311) FAX : 0223-37-5119

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 宮城県山元町 17,243人

当町は、宮城県の東南端に位置し、南は福島県新地町と境し、東は太平洋、西は阿武隈山地が屏風のように連なり、その中央部を阿武隈川が流れ、「亙理耕土」と呼ばれる広大な耕地が広がっている。また、気候温暖にして風光明媚な町である。

面積64.48㎏あり、町の中央には国道6号線が縦貫し、また海岸沿いにはJR常磐線が走っており、山下・坂元駅があり、町の中心部から仙台までは約35キロで仙台都市圏域のベッドタウンとして開発されてきており、今後人口増が見込まれている。

町は地域の財産である青少年を、生活文化・伝統などの体験学習を通し、地域の一員として共に磨き携え合う心を育むことを目指している。

事業の名称、活動概要

名称 「子どもも大人もみんなで遊び隊」

青少年を取り巻く社会環境が大きく変化や価値観の多様化の中で人間関係が希薄化し社会全体の在り方が問われている。

こうした中で青少年の規範意識や社会性を高め自立を育んでいくために学校・家庭・地域が一体となり地域社会を基盤とした青少年の多様な活動を実施していくことを目的とする。



[バルーンアート、楽しいね]

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

地域（足元）の生活、文化を見直し再発見するとともに地域の教育力を生かした様々な体験活動を展開している。

町教育委員会では町内小中学校の児童生徒の社会体験を推進するため、教育長を会長とし各小（5校）中学校（2校）の代表者、各企業・商工会代表（2人）、産業（農業・漁業・林業）、PTA、行政関係者などの20人で「山元町社会体験推進協議会」を設置し体制を整備し強力に推進してきた。

特に学校での「総合的な学習の時間」では、地域の教育力を活用し、町の基幹産業である農業体験（米づくり、りんご栽培、イチゴ栽培）や地元食材を使った「はらこめし」「ほっきめし」、また民謡、郷土芸能「坂元おけさ」「笠浜甚句」などの郷土伝統文化継承に取り組んでいる。

教育委員会は、児童、生徒の学習成果発表の“場”を提供し、また地域の人材の発掘・養成を図り、積極的に社会参加促進していくことを目的に、平成14年度から、青年（青年倶楽部“翔”）が中心となり、ジュニアリーダー（高校生）、商工会青年部、婦人団体、高齢者、PTAなどの各種団体の代表及び広報によるボランティアを加えて実行委員会（約50人の「助っ人衆」と呼んでいる）を組織し体制づくりを行っている。

① 事前準備として行った取組（企画段階）

小学生の参加する「子どもも大人もみんなで遊び隊助っ人衆」には、小中学校教職員のチョボラし隊メンバー10数人が入っており、事業を企画していく段階で、子供の意見を反映している。授業内容や授業での取り組みにおいても十分趣旨を生かした取り組みができています。

事業の実施に当たっては、ないものねだりからの脱却を目標にあるもの探し・あるもの生かしを、高齢者、団塊の世代が今まで培ってきた経験を生かし、在学青少年（高校生等）や、ボランティアにも参加を求め、役割分担を期待していた。



山の麓で弾き語り（中学生の出演）



竹でカブトムシが？…



郷土芸能「坂元おけさ」をアレンジ

② 活動展開内容（活動段階）

体験活動では、学校での総合的学習の時間の活用や放課後や週末の各種事業の実施など積極的に行っている。

- 音楽関係分野では「音楽の郷 YAMAMOTO」と銘打って行われる音楽会では、学校教職員と児童・生徒とのジョイントコンサート、親子、教員サークルなどが自主的に参加し、この他にも、町内イベントへの参加、他市町村との交流会など年4回（春：新緑の山の麓での弾き語り、夏：海辺で弾き語り、秋：学堂で弾き語り、冬：年忘れ音楽の郷やまもと）のイベントを実施している。
- 教職員の特技・能力を生かした、「科学実験コーナー」、「ものづくり体験」を各小中学校を会場に実施している。
- 高齢者などの地域の人材「遊名人（ゆうめいじん）」の知恵、技を生かした「竹細工」「木工づくり」「折り紙」「紙すき体験」「切り絵」は、伝承活動とともに高齢の生きがいとして年間を通し指導者としてのノウハウを学びながら活動している。



全日本車椅子バスケットメンバーも特別参加



第1回全日本ピンつり大会



科学体験コーナー

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

この事業を実施するまでは、山元町社会体験推進協議会、社会教育を語る会（平成元年度に町内社会教育主事有資格者で組織（町内在任教員12人、町行政10人）や社会教育関係団体（子育てリーダー、なかよし会、ジュニアリーダー「山元ボランティアサークル虹」、おやじの会、ひまだれ会など）がそれぞれが独自に活動を展開していた。そこで、組織、人材をより活かしたものするため「実行委員会」を組織し、優れた人材を学校と地域の教育力として活用することを考えた。

実行委員会の運営は連携・協働の理念に基づき、互いに無理せず、自分自身が大いに楽しみ、物事をプラス思考にと考えている。

また地域の大人は、実行委員会をボランティアとして自分の役割を果たせる「場」として自分探し、生きがいを求めて楽しんでいる。

学校・家庭・地域での課題を解決するため、今後は家庭の日の活用など濃密なネットワーク体制を作り上げていきたいものである。

事業の成果と今後の課題

今では「やらされている」から「やりたいからやろう」、「ないものねだり」から「あるもの探し あるもの生かし」へと意識の変化が見られ、物事に主体性を持ち積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきた。また、人材の発掘・養成の面でも、高齢はもとより教員の10年研修にも組み込まれ、教員の社会参加（「頭脳」の開放）を促すことにより、地域教育力の向上、ネットワークの構築、学校での地域人材活用が学社融合事業展開に大いに役立っている。

大人も子どもも共に磨き合う「共磨き」の姿勢を忘れず、地域の一員としての社会性を育む学校・家庭・地域ががっちりスクラムを組んだ事業を展開していきたいものである。

「あぜみち」とは郷土の風土の中で培われ育まれてきた文化であり、それを青少年にどのように伝承・継承して作業（バトンタッチ）していくかが「駅伝」であると思われる。

次代を担う地域の「宝」である青少年を、「お金では満たされない 物では満たされない 一人では味わえないもの」を、地域全体で「温かい目と 温かい心で」長い目で育ていきたいものである。



みんなで子育て



夢を乗せてはばたこう!!

執筆者職・氏名：山元町教育委員会生涯学習課

生涯学習班 班長 岩佐 孝子（社会教育主事）

コーディネーターからの一言コメント

地域学習には地域の人材が必要である。「あるもの探し・あるもの生かし」は、何かをしたいと思っているボランティアに活動のきっかけを与えてくれる。大人と子どもの出会い、それは地域と学校の出会いでもある。特技を持った人、事業に協力したいというボランティアの活躍に期待したい。

（坂東 侑司）